

か？

(A) 法律的には可能です。

(Q) 原発にテロを受けたらどうなるのか？

(A) 発電所は狙わないと思う。しかしもんじゅが軍事施設と見なされれば可能性はある。もし狙われて冷却できなくなった場合、普通の原発と違いもんじゅは止まっても冷却できなくなると燃料が崩れて条件によっては核暴走する。

(Q) 改造工事をストップさせる必要性を感じる。裁判で却下なり棄却されればもんじゅにかけている費用が無駄になるのではないか？

(A) その通りです。メンツだけでやっているだけです。本当にやる意味がどこにあるのか。無駄なことです。そういう意味でも1年間頑張っただけで予算を使わせないようにすべきです。

(Q) ふげんの廃炉はどうなるのか？

(A) ふげんは廃炉処置をせず覆っておくのがよい。切り刻めば放射能が分散しフライパンに混ざったりするというにもなる。潰してはいけない。

(Q) もんじゅと地震について？

(A) 地震により配管が折れたら大事故になる。

以上のような語る会の様子でした。参加して下さった方たちは熱心に聞き、話し、もんじゅをどうしたらよいのか考える良い機会だったと思います。

参加された1人の方は「こない日も、若い人が聞いてくれると良いのに。」と感想を話してくれました。

参加者の平均年齢が高かった(若い人はどこに行っているのでしょうか)のは事実です。それに欲を申せばもう少し多くの人に聞いてほしかったのも事実です。

でも、初めて来られた方も多くあり、チラシを見て参加してくれる方が多くなるよう日頃の動きを工夫しなければとも感じた1日でした。

若狭ネットの皆さんのご支援感謝致します。

三方町 石地優



関電の原発「自主点検適切に実施」と言うけれど・・・ 高浜1号の計装管台亀裂などで今後関電追及を

関西電力は、東電原発データ改ざん発覚後、原子力安全・保安院や福井県が発した指示に基づき行った原発の総点検を、「原子力施設にかかる自主点検作業の総点検実施報告書(最終報告書)」として、3月14日に提出しました。

ここでは、最終報告書の基本的な問題点を明らかにしたいと思います。

形式を整えただけの最終報告書

昨年11月15日の中間報告に続く関西電力の今回の報告は、他の電力会社の報告とも同様、「国や県に報告しました」という形を取ることによって、東電データ改ざん事件後の混乱の幕引きを狙ったものです。

東電の最終報告を受け、さっそく新潟県柏崎市の西川市長は、柏崎刈羽原発6号の運転再開を国の安全宣言を前提に容認すると4月8日にも発言しました。

最終報告は、自社の定期検査等の中味を生データまでさかのぼり検証したのではなく、工事施工会社の工事記録、工事報告書と発電所の工事報告書、点検作業成績書の4種類の帳簿を照合しただけのものです。もし、作業員や他社の社員が共謀してデータを書き替え改ざんしていれば、今回の調査で、不正などは発見できないのです。

しかも過去10年前まで遡って「自主点検」したのが関の山。原子炉、原子炉冷却材、圧力バウナダリー等以外の 炊系、タービン等2次系は前回定検までの調査でお茶を濁した程度。

しかし、こんな程度の「調査」でも記載不備、添付漏れ、落丁が続々発見され、工事報告書の誤記、記載漏れは514件にも上りました。関電や工事施工会社が工事報告書まで紛失していたことも発覚しました。

生データまで調べればどれだけ異様な事態が判明するのでしょうか。

上蓋管台「予防保全対策」も曖昧なまま

圧力容器上蓋の「予防保全対策」と称する取替工事について、私たちが指摘してきた上蓋管台の亀裂進展の速さやその温度条件の問題などに一切答えず、自社のホームページから図入りの説明 枚があるのみです。低温領域でも上蓋管台に亀裂が

できる等の重要問題には何のデータも示されないままです。

今後もこの問題は重要となってくるでしょう。関電の追及を継続していきます。

関電は1993年高浜2号で上蓋の調査を実施し、亀裂を発見したのに「異常なし」として、福井県に報告していました。最終報告では、この亀裂問題については何らの言及もありません。おかしな話です。

圧力容器計装管台の亀裂問題等も浮上

高浜 号の圧力容器底の炉内計装管台で亀裂が発見されたのに、「予防保全対策」と称するジェットピーニングで応力を緩和したとして運転を再開した問題（2月12日発表）に関しても、最終報告ではデータ皆無に近い取扱です。やはりホームページから取った図入りの説明 枚だけ、「ジェットピーニング」で、亀裂の進展が防ぐことが出来るのか疑問です。計装管台の問題では、前々日の2月10日に行った関電交渉では、関電側は一言も触れずに、2日後にプレス発表するという卑怯な態度に出ました。

関電によると炉内計装管台の亀裂はPWRでは初めてとのことですが、実は以前から計装管台の検査や修理、取り替えが行われてきた事実が、中間報告、最終報告に載っていたのです。

その点を質そうと2月17日に若狭ネットから提出した質問書に対して、関電はいまだに回答を出しません。ダンマリを決め込んでいます。

緊急時に使用する燃料取替用水タンクの屋根や胴板に、関電全体で80箇所「指示」があったことも新たに報告されています。

4月30日の交渉では、大勢の方々とこれらを厳しく追及したいと考えます。多数ご参加下さい。